

***** 2010.3.24 発行*****

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

編集・発行：日本マラウイ協会
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-2-24 青年海外協力協会気付
Tel. 03-3447-2921 Fax 03-5798-4269
Home Page <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>
E-mail japan-malawi@auone.jp

【マラウイ共和国】

面積：118,484 平方 km (日本の約 1/3)
人口：1428 万人 (2008 年世界銀行)、首都：リロングウェ
独立：1964 年 7 月 6 日、公用語：英語、チェワ語
政体：共和制、大統領：ピング・ワ・ムタリカ
為替レート：US\$1 = MK 147.570 (3 月 7 日現在)
MK 1 = 0.59 円(3月7日現在)

【日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan)】

日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。会員数：298人(3月1日現在)



マラウイ共和国 国旗



ニュース

マラウイ北部で地震

2009年12月6～8日にかけて、カロンガを中心とした北部(チティパ、ムズ)で地震があった。最大マグニチュードは5.1。

12月18日までのマラウイ政府発表によると、キルブラ地区とムワカボコ地区の3,047世帯の家が崩壊したり、ひびがはいるなどの影響を受けた。約3,000人が帰る家を失い、学校の壁や教員住宅、警察署、ヘルスセンター、井戸などの公共施設にも被害が出た。

(駐日マラウイ大使館情報)

ニュース

マラウイへの最近のODA案件

2008年1月に在マラウイ日本大使館が開設されてから、ODA案件の書簡署名・交換はリロングウェで行われることが多くなった。以下の2件は最近行われたものである。

(1) 2010年2月17日、野呂元良駐マラウイ国大使と先方ケン・カンドド財務大臣(The Honourable Ken Kandodo, Minister of Finance) との間で、6億6,000万円の環境プログラム無償資金協力「太陽光を活用したクリーンエネルギー導入計画」に関する書簡の交換が行われた。

この計画は、首都リロングウェの国際空港であるカズ空港施設の電力系統に連系する太陽光発電システムの整備に必要な資金を供与するもので、温室効果ガスの排出量を削減すると共に、空港施設のより円滑な運営にも貢献するものである。

(2) 上記と同時に8億8,300万円の一般プロジェクト無償資金協力「国道1号線南ルクル橋架け替え計画」に関する書簡の交換も行われた。

この協力は、国道1号線ルクル橋を2車線橋の南ルクル橋として架け替える際に必要な資金を供与するものである。これにより、通行可能な車両重量が大幅に引き上げられるとともに、対向車の通行が可能になり、東南部アフリカ諸国間の物流促進、地域開発に貢献することが期待される。(外務省発表ニュースより)

レポート グローバルフェスタ2009

平成21年度4次隊 村落開発普及員 原口 陽子

2009年10月3日、4日に開催された『グローバルフェスタ2009』の日本マラウイ協会のブースにおじゃましました。



▲会場入り口のアーチ型ゲート

2009年春受験で平成21年4次隊の村落開発普及員となりましたが、事前研修が始まる前でもわからず、大きな不安を抱えていました。

合格後、すぐに日本マラウイ協会の定例会にお邪魔して相談に乗っていただき、少しずつマラウイのイメージを膨らませてはいましたが、まだまだイメージしきれず、不安がっていたと



▲野呂 在マラウイ日本大使(中央)とともに

ころ、今回のグローバルフェスタに誘って頂きました。

グローバルフェスタは『10月6日は国際協力の日』を記念して開催される国内最大級の国際協力のイベントで、1990年から開催されています。会場の日比谷公園にたくさんのテントが設営され、そこに、NGO、国際機関、大使館、青年海外協力協会(JOCA)などの団体が出展します。

これまでイベントには数回行ったことがありましたが、さすが国内最大級!という盛り上がり様でした。

来場者は、国際協力分野の学生さん、海外転勤を控えて情報収集に来る方、買い物が楽しみで毎年遊びに来る方、親子連れなど多岐に渡り、2日間で延べ9万6千人の来場者があったそうです。

今回のテーマは『地球と世界の今を、楽しみながら知る2日間。』ということで、私もブースのお手伝いもそこそこに、会場内をゆっくり回らせていただき、いろいろな視点から見る『地球と世界の今』を知ることができました。

日本マラウイ協会のブースにも、『マラウイ母の会』の素敵なバックに惹かれ、たくさんの来場



▲チテンジバッグを販売する母の会メンバー

者が訪れて、1日中とてもにぎやかでした。バックはマラウイから持ち帰ったチテンジから作られた手作りの作品で、色々な種類の物が販売されました。このマラウイ母の会の収益は、隊員のマラウイでの活動資金に提供して下さるということで、これからマラウイで活動する我々にとって、とても心強く感じました。

みなさん時間を見つけてはマラウイや活動について情報を教えてくださり、不安も解消され、応援の言葉もたくさん頂きとても勇気付けられました。みなさんから頂いた言葉を胸に、しっかり活動していきたいと思えます！ Zikomo！

投稿

剣道大会開催

平成20年度1次隊
コンピュータ技術 風折 政幸

去る2009年11月28日、ブランタイアのセントアンドリューズインターナショナルスクールにて剣道大会が開催された。参加者は青年海外協力隊(JOCV) マラウイ関係者8名とブランタイアで剣道を行うマラウイの人たち12名。会場には朝から白熱する選手の掛け声、竹刀の音、ギャラリーとして駆けつけた人たちの歓声が響いた。

今回は、ブランタイアで中心となって剣道を行っているオースティン・ソンバさんに積極的に準備を進めていただき、彼が勤務するTOYOTA Malawiからのスポンサー協力を得るにいった。選手としても活躍したソンバさんは今後も定期的に大会を開催したいとのことで、継続的な開催も期待される。

当日のプログラムは午前中に個人戦、午後には日本チーム対マラウイチームの団体戦が行われた。個人戦は日本人、マラウイ人の混合で5人ずつ4

リーグに分かれてリーグ戦を行い、その後、各リーグの上位2名、計8名によるトーナメント戦を行うという方式で実施された。入賞者には賞状と併せて記念品が準備されていたこともあり、経験者、未経験者問わず積極果敢な戦いが繰り広げられた。決勝戦は進士真也選手とオースティン・ソンバ選手の対戦となった。進士選手が試合開始早々に面を1本先取した後、ソンバ選手が小手を奪い返し接戦となったが、最後には進士選手が再度面を奪い優勝を勝ち取った。



▲ 対戦相手と向き合っ

午後には日本チーム対マラウイチームの5人制による団体戦が行われた。それぞれのチームから選抜された5人は経験者のみで構成されることと

なり、予想通りの引き締まった展開となった。結局、勝敗は大将戦に委ねる展開となり、大将戦を制した日本チームが3対2で辛勝した。

前年に続いて2度目の開催となった今回の剣道大会であるが、マラウイでは競技人口も少なく、試合の機会も限られるため、どうしても個々の目標を設定しづらいのが現状である。だからこそ、今回のような大会がマラウイで剣道をするメンバーにとって非常に大切な機会であると思う。そして今後も剣道を続ける中で、いかに自分を律することができるかという自己研鑽や「礼に始まり礼に終わる」と言われるような人に対する礼節など、単なるスポーツではない「武道」の真髄から学ぶ日本の心についても感じてくれればと思っている。

投稿

2009年夏のマラウイ
滞りで学んだこと

日本マラウイ協会会員
高橋 敦子

私がマラウイの人達に惹かれたのは、インフラ整備も乏しく、平均寿命も短く人の死が身近にある貧しい国でありながら、人々は決してその不幸に浸り打ちひしがれることなく、明るく生きておられることです。とても親しみやすい人が多く、私が毎日通う徒歩30分間の道でも、何人も人が笑顔で話しかけてきてくれました。私を一人の人間として、思いやりをもって声をかけてくれるのが伝わってきて、私が片言の現地語で挨拶すれば、満面の笑みが返って来ます。戦後の日本社会、物質的な豊かさや忙しい都会の生活の中にまぎれ込んでいる一人として、私は、現地で彼等とのふれあいを通じ、改めて人として大事なピュアな態度を有り難く感じました。

今回、私は、マラウイの北部 Mzuzu に滞在



▲ 終了後、参加者全員で

し、地域を支援するNGO団体ウングウエル＝Ungweru＝(ツンプカ語で光の意味)で、外国人ボランティアとしてお世話になりました。そのNGOは、マラウイ在住のアイランド人の司祭が立ち上げ、現地のマラウイ人と共に地域を支える様々なプログラムを運営、支援しています。現金収入が乏しい人達にとっては高価な新聞を、毎日、無料で閲覧できる図書室や、安価なパソコン教室とインターネット、会議室を開放することで情報の場を提供しています。また、地域を支え、発展させる小さな多数のCommunity Based Organization (CBO) を支援しています。社会の弱者を発見し支える、いわゆる日本の訪問看護ステーションや、孤児のための保育園、身体障害者クラブなど、活動は多彩です。

パソコン教室のお手伝いのニーズがあったので、マラウイの若者に簡単な操作方法の援助をしながら、作業療法士としての自分の情報収集のために、施設見学やミーティング参加を通じて、できる範囲の(できるだけお金をかけないで出来る)情報提供をさせて頂きました。例えば、孤児のための保育園で日本のわらべ歌「かごめかごめ」などの遊びを紹介し、アレンジしてもらうようお願いしました。身体障害者クラブや興味のある人には、安価な素材で出来る織機や編物、簡単な体操の紹介しました。また、ボランティアの人達の中から、孤児自立支援のプログラムを無償で協力してくれる案を出してくれたので、資金援助して帰国しました。

貧困は深刻な問題です。その保育園は、屋根建物はあっても、水道、トイレは未完のまま。その地域のエイズ孤児や寡婦、高齢者への主食(メイズ)や日用品の支給も、主にアイランドからの寄付で賄われていますが、寄付金のない時は、あげる物がないので辛いと話されていました。友人の立ち上げたVwiraというCBOは、患者自らエイズ教育に訪問し、孤児への職業訓練、高齢者に毛布配布などを行っていました。今回はミーティングで、資金繰りのための鶏舎設計計画を見守りましたが、継続には援助が必要と感じました。

現地のボランティアたちに、自分の生活にゆとりがなくてもボランティアをするのは何故? との私の問いに対して、「あげる物が何も無いから、愛情しかない」"Loveone another." (キリスト教)という言葉が印象に残っています。また、友人の助言「自分の達成感よりも、対象となる人の幸福



▲ Mzuzuの道で見かけた女の子

を第一に考え、一緒にいることを楽しむ)を学ぶ機会に恵まれたことを感謝しています。

マラウイは、不思議な国です。ハプニングが、偶然の人の出会いと善意で解決される面白い経験をしました。今後、「私達一人ひとりの小さな行動の積み重ねで、より良い世界が創れる。それによって自分自身も、共に啓蒙される」というある女優さんの言葉を信じて、マラウイの人達と交流を続けていきたいです。



▲ Ungweruのパソコン室/図書室

▼ 孤児のための保育園で



投稿 マラウイ産 蜂蜜

昭和53年度2次隊 後期組 無線通信機 上田 秀篤

昨年12月、マラウイ関係者のメーリングリスト「マラウイJ ML」にマラウイ産蜂蜜の紹介が流れた。この蜂蜜は一村一品運動(OVOP: One Village One Product)を通じて、「合資会社オフィス五タラント」という会社が輸入、「マラウイハニー」という製品名で販売している。同社のホームページ(<http://www.malawi.jp/>)を見ると、この蜂蜜の産地はマラウイ南部のムランジェ地方のマバング村で、人が育てた養蜂ではなく、野生の蜂がマンゴーやナッツの花から採取した天然蜂蜜とのこと。

自然食品好みの家内は、早速、ネットで注文した。1瓶170gで1470円。5つ注文した。届いた品物には店主の水野行生さんと生産に携わっている村人の写真がプリントされた礼状が添えられていた。水野さんには、マラウイ産蜂蜜を日本に紹介し、市場として成り立たせ、その収益でマラウ

次ページへ



◀ マラウイハニーの瓶

イの生産者の生活や周辺社会の地域開発の一助
としたい、という思いがあるようだ。
味は濃厚で3歳と5歳の子供が好んで朝食のバ

ンに塗って食べている。帰国して30年、仕事と
子育てに追われる日々であるが、この蜂蜜をビス
ケットに塗って食べる休日のティータイムのひと

ときは、ふと心がマラウイへタイムスリップする。
皆さんも、この蜂蜜でマラウイの一村一品運動
を応援しませんか。

最近のマラウイ関係テレビ番組

(1) 2009.10.4			
NHK BS1	22:10~23:00 (50分)	地球アゴラ	温暖化対策・世界の市民のホンネ
(2) 2009.11月~2010年1月			
知花くらの地球サポーター マラウイ編 テレビ東京 (8回シリーズ 正味各4分)			
VOL.1	2009.11.27	22:48~22:54	マラウイの人々の健康を守るために
VOL.2	2009.12.4	22:48~22:54	収穫量の増加を目指し、農業技術を伝える
VOL.3	2009.12.11	22:48~22:54	村の特産品を作るために活動する日本人
VOL.4	2009.12.18	22:48~22:54	人々の生活に潤いをもたらす綺麗な水
VOL.5	2009.12.25	22:48~22:54	子供たちに理科の魅力を伝えたい
VOL.6	2010.1.8	21:54~22:00	乾季に農作物を实らせる水道橋
VOL.7	2010.1.15	21:54~22:00	牛の乳量を増やすために活動する一人の日本人
VOL.8	2010.1.22	21:54~22:00	農業に必要な肥料を生み出すエコサントイレ

日本マラウイ協会 2009年9月~2010年2月主な活動内容

(1) 2009.9.25	9月例会、KWACHA第42号発行、 25周年記念誌発送
(2) 2009.10.3~4	グローバルフェスタ2009出展 (1-2面の記事参照)
(3) 2009.10.28	10月定例会
(4) 2009.11.25	11月定例会
(5) 2009.12.18	12月定例会、納会
(6) 2010.2.17	2月定例会



日本マラウイ協会情報

■ お知らせ

当協会会長 数原孝憲は平成21年秋の叙勲 (11月3日発令) で瑞宝中綬章 (外交功労) を授与されました。

■ 第28回通常総会のご案内

日本マラウイ協会は第28回通常総会を別紙の通り開催します。会員の皆様は同封の葉書にて出欠をご連絡下さい。

■ 第4回協力隊まつりに出展

日本マラウイ協会は本年4月3・4日 (土・日) にJICA地球ひろばで行われる第4回協力隊まつりに出展します。食品調理販売ではマラウイの揚げパン「マンダジ」とマラウイ紅茶のセットを、展示販売ではチテンジバッグの販売などを行う予定です。皆様どうぞおいで下さい。また、お手伝いいただける方は当会へご連絡下さい。

■ KWACHAバックナンバー

当会は2008年2月26日に設立25周年を迎えましたが、設立時の機関紙KWACHA第1号から第43号 (今号) までの全バックナンバーをPDFファイル化し、当会ホームページへ掲載しています。是非ご覧ください。

URL : <http://www.joca.or.jp/malaw/malawi-j.htm>
から「日本語」を選択、左端のメニューから「機関紙KWACHA」をクリックすると、右ページに号数一覧が出てきますので、希望の号数をクリックしてください。

■ チェワ語辞典 統合改訂版 売り切れ

約10年前の2000年7月にマラウイ独立36周年を記念して当会が発行した「チェワ語辞典 統合改訂版」が売り切れとなりました。当時500部作成しましたが、二本松訓練所で派遣前訓練を受けている隊員候補生からはほぼ毎隊次ごとに注文があり、また最近シニアボランティアの方や、隊員視察の旅でマラウイへ行かれる留守家族の方々からの注文も増えておりました。当会では増刷にあわせて若干の手直しを計画しております。完成は2010年度末までを予定しております。



▲ 売り切れたチェワ語辞典 統合改訂版

■ 日本マラウイ協会の刊行物

(1) マラウイ旅行ガイド 新訂第2版 (97年7月発行) 「アフリカの暖かき心、湖とサバンナの大地へ」 B5版108ページ 1部 1,200円 (送料210円)

(2) 国情紹介誌「Malawi - The Warm Heart of Africa」第2版 (94年7月発行) A4版40ページ 1部 1,000円 (送料210円)

送料は「ゆうメール (旧冊子小包郵便物)」扱いで表示しています。下記2種類を1冊づつご注文の場合は次のとおりです。

(1)+(2) = 290円

購入ご希望の方は、本ページ最後の入会方法の欄に記載の銀行口座宛に、代金および送料をお送りください。

●送金される場合は、事前に必ず注文内容 (希望する「刊行物名」、「部数」、「発送先」、「申込者の氏名、電話番号」) をメールまたはFAXでご連絡ください。

■ ご意見、ご質問をどうぞ

日本マラウイ協会に対するご意見、ご要望、ご質問などありましたら、下記当協会宛へご遠慮なくお寄せください。また、電子メールによるマラウイ関連情報の配信も行っておりますので、電子メールアドレスをお持ちで、ご希望の方は、あわせてご連絡ください。

■ 日本マラウイ協会 月次定例会

日本マラウイ協会では、原則毎月第3水曜日18:30~に、東京都内 (通常はJICA広尾地球ひろば 会議室) で、月次定例会を開催し、マラウイ関連の支援活動などについての討議や、マラウイ関係者間の情報交換などを行っております。参加は会員でなくても構いません。初めての方も大歓迎です。詳しくは当協会までお問い合わせください。

■ 日本マラウイ協会 入会方法等

入会申込書を当会ホームページからダウンロード (<http://www.h4.dion.ne.jp/~malawi/application.doc>) し、各項記入の上、E-mail添付で当会へお送り下さい。E-mailで入会希望の旨を連絡くださっても構いません。また、入会金と年会費の合計 (個人正会員の場合1,000円+3,000円=4,000円) を下記のいずれかの銀行口座へお送りください。また、継続会員の方の年会費 (個人正会員の場合3,000円) は、E-mailまたはFAXでご連絡の上、お送りください。

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-2-24

青年海外協力協会気付 日本マラウイ協会

TEL: 03-3447-2921 FAX: 03-5798-4269

E-mail: japan-malawi@auone.jp

1)三菱東京UFJ銀行 東恵比寿支店 普通口座255739
口座名義 : 日本マラウイ協会事務局 貝塚光宗

(2)ゆうちょ銀行 〇一九店 (ゼロイチキョウ店)
当座預金口座 0013125 口座名義 : 日本マラウイ協会
(ゆうちょ銀行から送金する場合は、口座番号 : 00190-7-13125)